

# 鶴城中だより

文責 校長 船津 巧 No.10

## ちょっとだけ頑張る

### こんなはずでは……

一年の計は元旦にありという。今年こそはと誓ったり、決意した人も多いはず。だが、十日もすれば、そろそろ元の木阿弥という人も多からう。

一年の節目をもって、新しいことを始めて、新しいことを始めることは、確かに相乗効果になるかもしれない。しかし、それが長続きしないのは何もならない。シドニーオリンピック

## 高二が涙、道に散乱した紙回収

1月6日にインターネットで課題のニュースに目当たり、3学期の始業式で生徒に紹介しました。

自転車で通学している湯本さんは昨年12月21日夕方、鴻巣市の県道を通りかかった際、新聞紙や折り込みチラシが半径約3メートルにかけて大量に散乱しているのを目の当たりにした。一度はそのまま通り過ぎたものの、「何もしていない自分に辛くなっ

た」と戻って来た。当初は古紙を自転車の前かごに積んで自宅に持ち帰ろうとしたが、収まり切れない。約500メートル離れたコンビニエンスストアへ行き、ごみ袋を買って戻り、再び拾い集めた。現場は交通量の激しい通り。湯本さんは青信号になるたびにひたすら拾い続けた。午後5時20分ごろ、鴻巣署員が駆け付けると、

であり、まだ余力があるのではないかとさえ思える言葉であった。

高校生の頃、ある練習に参加した高橋さんは、アジア大会800m走に出場したことがある先輩の「毎日の練習の後、100mを3本だけみんなより余計に走っていた。」という言葉に衝撃を受けたらしい。たった3本で日本代表になれるのか。という思いを持ち、その日の練習から「たったこれだけ」のメニューを付け加えたそう。これが3本ではなく10本に相当するメニューであれば、

すでにごみ袋3袋分、計10キロの古紙が回収されていた。持ち帰り方法を考えていた矢先に署員が到着。安心した湯本さんの目からは涙が流れた。高校ではバスケット部に所属している湯本さん。学校周辺のごみ拾いなど美化活動をしてから朝の練習に取り組んでおり、「学校でもやっているのだから前も思って拾いました」と振り返った。湯本さんの行動は、誰かに言われていたのではあり

ば、きつと三日坊主に終わってはいはず。長距離のメニューであるから、5分だけ余計に走ることからはじめていき、慣れてくれば10分、20分と伸ばしていったそう。最初から30分などと欲張っていたら、きつとあの高橋さんは存在しなかったらう。

今年はあるをしたい。これを実行しようと考え、三日坊主に終わった人の目標は、「たったこれだけ」だったのか。最初からちよつとハードルが高かったということはないだろうか。苦にならない程度のことから始めては……。

ません。毎日の部活動前の行動が本身に染みついていました。本物の行動です。ここまでハードルを高める必要はありませんが、鶴城中の生徒にも身につけてほしいものです。まずは、あいさつから「いつでもどこでもだれにでも」これから始めて行きたいものです。凡事徹底。考動力を高め、最初の一步を踏み出します。



始業式に発表してくれた新年の抱負の中で、三年生の森さんの決意をお伝えします。

いよいよ今日から三学期が始まります。一、二年生の皆さんは、部活や日々の学習、三年生は受験やテストに向けて冬休みを有効に使うことができたのではないのでしょうか。今学期は、私たち三年生にとつて最後の学期となります。二学期のように終わってしまつてから悔やむことなどできない学期です。二学期は正直、だらけてしまうことや、自分に甘くあきらめてしまふことがあります。そして、中学校生活が最後に近いことに実感がわかず、ついつい一日の生活を無駄にしてしまうこともありました。

でも、三学期は後悔しないために、勉強面・生活面に更に力を入れて取り組みたいと思います。勉強面は、受験に向けての取り組みです。まずは今までよりも勉強量を増やし、更に内容にもこだわりたいと思います。志望校は決まっているの

## 受験は団体戦・後悔しない3学期に

で、その高校の過去問を何回も解いたり、わからないところは先生に聞いたりして、少しでも苦手を無くしていけるように頑張ります。また、「受験は団体戦」とも言います。友達と競り合ったり、みんなで勉強する雰囲気をつくったりして互いに高め合い、切磋琢磨することが大切になります。受験は今までのような甘い考えでは乗り越えられない壁だと思つて、心を入れ替えて臨みたいと思います。生活面では、健康管理はもちろんです。このクラスも残り二ヶ月となりました。残された中学校生活では、クラスメイトや先輩と最高の思い出をつくりたいです。全てが終わつたときに後悔のない三学期だったといえるように、一日一日を無駄にせずに過ごそうと思います。

三年生の皆さん、これから勉強に追われる日々が続くと思いますが、みんなが乗り越え、自分の第一希望の高校に合格できるように、みんなが頑張ります。